今も残る伝統行事

月日	行　事	内　　容
1月 14日	とんどさん 	お正月に使った門松やしめ飾りを各家庭から持ちより、一ヵ所に集めて積み上げます。それに火をつけて燃やします。 子どもたちが、「とんどさん、ヤーイ。」とはやしながら、青竹で地面をたたいて火のまわりをまわります。家族の健康と安全を祈るお祭りで、この火で焼いたもちを食べると、一年間、病気をしないといわれています。また、書き初めの紙を投げ入れ、高く上がると字が上達するといわれています。
2月 3日	節　　分 	節分は、立春の前の日で、冬から春への季節のかわり目をさしています。 この日、大豆をいって、「鬼は、外、福は、内。」といいながら、豆をまきます。豆まきは、病気や災難のもとである鬼を追いはらって、福の神をむかえる行事です。　まいた豆を年の数だけ食べると、厄（悪いこと）をのがれるといわれます。豆まきのほかに、イワシの頭をさしたヒイラギの枝を家の軒にかざって、悪い鬼を追いはらうおまじないをするところもあります。中国から伝わった習慣だそうです。
3月 3日	ひ な 祭 り 	ひな祭りは、中国から伝えられ厄ばらいとひな遊びがひとつになったものといわれています。ももの節句とも呼ばれ、ひな人形をかざり、白酒・ひしもち・あられ・桃の花を供えて祝います。山陰では、ひと月遅れの4月上旬の行事です。お嫁入りには、ひな人形を持たせるそうです。また、節句が終わったらすぐにかたづけないと、お嫁に行き遅れるといわれています。

5月 5日	**端午の節句（子どもの日）** 	この日は、端午の節句にあたり、むかしから男の子をお祝いするならわしがありました。今では、男女の区別なくすべての子どもをお祝いするとともに、すこやかに育ててくれたお母さんに感謝する日です。千巻きや柏もちを作ってお祝いします。 千巻きのゆで汁をいれたおふろや菖蒲の葉を浮かべたおふろに入ると、一年中、病気やけがをしないといわれています。 さわやかな5月の空にひるがえるこいのぼりにも、こどもたちがじょうぶで元気に過ごせるようにという願いがこめられています。
8月 7日	**七　夕　祭　り** **盆　お　ど　り** 	ひこ星とおり姫の話は有名です。短冊に願いごとを書いて、いろいろいろな紙細工といっしょにささ竹につけます。むかしは、さといもの葉の朝つゆで墨をすり、さおほうがうまくなりますようにとか、字が上手になりますようにとか、願いごとを書いたそうです。山陰では、８月７日に行います。地区のこどもたちが集まって七夕かざりを作り、夜は、おとなもいっしょに歌を歌ったりきもだめしをしたりごちそうを食べたりして過ごします。夏休み中の楽しい行事です。以前は、次の日に七夕かざりを川にながしました。 盆踊りは、８月のお盆のころに行われる踊りです。盆おどりという特定の型があるわけではなく、各市町村、各地域ごとに踊り方や歌がちがいます。塩冶では、明治の時代に塩冶の来間ハリさんたちが「塩冶にも盆おどりを」ということで始められたそうです。

11月 15日	帯　な　お　し 	3歳と5歳の男の子、3歳と7歳の女の子が成長を祝って神社にお参りする日です。小さいときは、着物が大きいのでぬいあげをします。大きくなってちょうどよくなると、それを下します。こうして子どもの成長をよろこびました。だから、帯なおし、紐落としともいわれます。この日ばかりは、晴れ着をきます。祝い膳の前でごちそうを食べ、千歳飴（紅白の祝いもちのところもある）を親せきや近所に配って祝います。
12月 31日	大　み　そ　か 	大みそかは、一年のしめくくりの日です。新年をむかえる準備にいそがしい日です。かがみもちを供えたり、しめなわなどをかざったりしします。また、人間には、百八つの心なやみがあるといわれます。それを消すために、除夜の鐘がつかれます。

い